（三十日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　逵沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

鐵と砲

（投書歡迎）

取扱注意

◇新聞紙上に於て親展書が開披されたと云ふ記事を見たが之れについて一言を寄してきたいと思ふ

◇小さな好奇心乃至いたづしからか、密計、即ち大なる陰謀からか、または糊の關係で取扱中自然に披いたものか、その點全く知るを得ず從つて右事件に就ては玆に言ふべき限りでない殊にこれをことさらに披いたものなりとせば司法の手に屬する問題であるが私は左の苦言を吐き出させずにはおかない

◇と云ふのは郵便取扱ひ者がその事務に狎れ自己の職責の如何を忘れ機械的に、甚だ輕々しく之を扱つてゐると云ふことである、此際私は郵便機關に對してその機關の重要性、職責の重大さに就て、特に一考を煩はしたいのである

◇小生の手にも、封緘の披らかれたもの、水に浸つて文字の流出したもので配達される事は屢ある。その責何れにありや、たやすく斷じ難きも雨の日にひどく濡に郵便物の配達され斷りもなく手當り次第に投込んで行く、ために屢々讀みおくれたり長いこと氣附かなかつたりすることのあるはまことに迷惑である

◇要するに配便物は、甚だ粗末視されてゐるのである。一錢五厘とか、三錢とかの安い料金から郵便物を輕視するが如きことなく、その本質を諒解して遺憾なきを期し文明の制度のありがたさをよりよく示して頂きたいものである（利吉）

平館隣り
御料理
鰻蒲燒
仕出し
魚榮
電話四二四番

選擧違反條項
此の點特に注意（下）

選擧が終つた後でも報酬の意味で以上に揭げた事柄をしてはならぬこと

選擧が終つた後でも選擧前に盡力したことの御禮といふ意味で金品を貰つたり饗應接待を受けたり公私の職務を與へられたりすると犯罪になります

以上に揭げた金品、職務、饗應、接待、利害關係等を種にして選擧運動をしてはならぬこと

金錢、品物、手形、車馬賃茶代、宿泊料、公私の職務饗應接待、利害關係等を種にして投票や運動を頼んだり投票や運動を止めることを頼んだりまたは候補者若しくは候補者となることを止めることや當選を辭することを頼んだりすると犯罪になることは勿論であります

以上に揭げた事柄に付て周旋勸誘をしてはならぬこと

以上に揭げた事柄を人と人との中に立つて世話をしたり勸誘をしたりすると犯罪になります

選擧人や、議員候補者や、議員候補者にならうとする者や、運動者や、當選人に對して亂暴をしたり又はおどしたり拐したりしてはならぬこと

選擧人や、議員候補者や議員候補者とならうとす者や運動者や當選人の身に立塞がり若しくは追隨したり之等の者に對して亂暴をしたり、些細なことでも嚇したり、無理やりに連れ出したり、抑留したりすると犯罪になります

用水とか、小作とか、貸借とか、婚姻等の人事の關係とかを利用したり、又は神社、寺院、學校、會社、組合、市町村等に利害關係のあることを種にして選擧人や議員候補者や、議員候補者にならうとする者や、運動者や、當選人を嚇すことも犯罪になります

演說を妨害したり、往來や、集會の便を妨げたり、其の他不正の方法で選擧運動の妨げをしたりしてはならぬこと

演說會場で故と喧噪をしたり、狂暴に渉ることをしたりして演說を妨害をすると犯罪になります、往來や集會の便を妨げるために車や會場を借切つたりすることなども犯罪になります又選反事件が出來たとか、主腦運動が辭任したとか死亡したとか言つて當選に影響を與へるやうなことを僞はつて言觸らしたり其の他あらゆる不正の方法で投票の自由又は選擧運動の自由を妨げることも犯罪になりす

議員候補者の當選を得るために、又は當選を妨げるために、僞りの事柄を言觸らしてはならぬこと

候補者の當選を得るために議員候補者の身分、職業または經歷について有りもせぬ僞りの事柄を演說したり新聞雜誌に書き立てたりビラやポスターに書いて配つたり張つたりその他どういふ方法でも公衆に知らせるやうなことをすれば犯罪になります。當選を妨げるために議員候補者に關して有りもせぬ僞りの事柄を右と同じやうな方法で公にすれば犯罪になります

大勢集つたり、練り歩いたり、烟火を揚げたり、鐘や太鼓を鳴らしたり、旗を立てたりなどして氣勢を張る樣なことをしてはならぬこと

選擧のため斯樣なことをして警察官から制止を受けても聽かないと犯罪になります

銃器や、鎗や、刀や、棍棒の樣なものを携帶してはならぬこと

選擧のために銃器や刀劍や棍棒等人を傷けるやうな危險な物を携帶すると犯罪になります斯樣な物を持つて投票所や開票所へ入ると一層重い犯罪になります

大勢集つて亂暴をしたり、騷いだりしてはならぬこと

投票所や選擧會場を騷がしたり其處で亂暴をしたりすると重い犯罪になります、大勢集まつて斯樣なことをするとなは一層重い犯罪になりますその他選擧に關して騷ぎを起したり亂暴をしたりするために大勢集まつたりすると犯罪になります以上は今度の總選擧について注意せねばならぬ事柄の概略を述べたに過ぎぬのでありますます詳しいことは府縣制、衆議院議員選擧法及び同法附屬の法令を御覽なさい尚刑法、治安警察法、警察犯處罰令等も關係がありますから之等の法令に就ても注意せねばなりませぬ（終）

明日の吉凶

舊曆八月五日
新曆八月卅一日

▲一白　身飾りを質素にして分限を守れば大吉なり▲二黑　十分と思ひし事にも行難みを生ず失物注意▲三碧　苦しみ多くとも後日のためと思ひて辛抱すべし▲四綠　自分でも思はざりし事に不圖手出し苦しむ日▲五黃　氣を締め油斷なく勵むときは大望も成べし▲六白　進路を曲げず既定の方向に歩むが安全の日▲七赤　永久に亘る事を始むるには尤も吉き日なり▲八白、金錢出るとも苦にする勿れ後日大に入る種▲九紫　目上に逆らはぬ樣にすべし外に在りて失物注意

講談　[illegible]　（126）

高橋掬太郎創作
布施半八郎揮畫

怪人は笑ふ

吉村玄蕃は夜に入るを待つた、彼は大言壯語する如く天狗の假面の怪人を討ち取るに充分の自信があつた

やがてその夜も更けて五つ半（九時）頃玄蕃任調べて街道の松並木へと出かけて行つたがあたりを見ても通行人の影も見えない。

「は……怪人の噂に怖氣がついて夜歩きする者がないと見える。意久地のない奴ばかりぢや」

と玄蕃は獨り言を云つて高らかに笑つたそして彼は道傍に根を張つてゐる老松の根元に腰をかけて彼方此方と闇中をすかして見ながら

「この怪人とやらも今夜は俺の刀の錆になるのだ早く出て參るとよいが」

と暫くの間待つてゐたが怪人らしい影も見えなかつた。

「いやどうして出て來ぬのであらう、俺の來ようが早かつたのか、それとも俺の武勇に怖れたのかほんに待つ身は辛いものだどれ一廻り探し廻つて來ようか」

と玄蕃はやをら起ちあがつた、するとその眼の前の松の梢で大聲で笑ふ者があつた、そして

「は……探しに出かけるには及ばぬ大分大きな熱を吹いて居るやうだが少しは手應のある奴か？」

と嘲けるやうに云つたそれは正しく天狗の假面の怪人であつた。

「ナニッ――」

と玄蕃は梢を仰いだ

「驚くなよ、俺は先程から梢の上で一眠りして居たのだ」

怪人は笑つて云つた

「た貴樣は天狗の假面の怪人だな」

玄蕃は大刀の柄に手をかけて身構へた

「如何にも怪人だ近頃はどうも手應のある奴が出て來ぬので張り合がない其方は少しは骨があるか」

「ナニ骨があるかとは何事だ武士に向つて無禮の一言昌康の家中で隨一の豪傑劍道指南役の吉村玄蕃だ尋常に勝負しろ」

「おゝ吉村玄蕃か吉村ならば手應があらう、だが急くに及ばぬ勝負したくないといふても勝負してやるのだ死出の旅路は急がずに行け」

怪人はからかふやうに云てヒラリと松の梢から飛び降りたがその身る輕いこと鳥のやうであつた

玄蕃は一歩退つてかい人の隙を狙ひながら

「毎夜のやうに往來の武士を斬つて捨てる曲者一体何奴であるか名を名乘れ」

と叫んだ

「は……俺の名が名乘つて聞かすもよいが死出の旅路に俺の名は通用せぬ、默つてあつさり討たれるがよい」

とかい人は尚をも嘲笑しながら刀の柄に手をかけてヂリ／＼と詰めよつた

「拔け――」

忽ち例の一喝――

「何をッ――」

と玄蕃は大刀の鞘を拂つて大上段に構へたゞ一討ちといふ勢ひ「曳ッ！」

とかい人の鋭い氣合と共に紫電一閃闇を裂いてグンバの眼前に流れた

「わッ――」

グンバは体を斜に開いてかい人こ及先を拂ふ

「ヤッ――」

かい人の劍は電光を發してゲンバの頭上に飛ぶ。グンバもなか／＼の腕前体を縮めて後に退きかい人の胴を望んでなげ込むが如く横の一刀かい人は早くもカチりと受けた

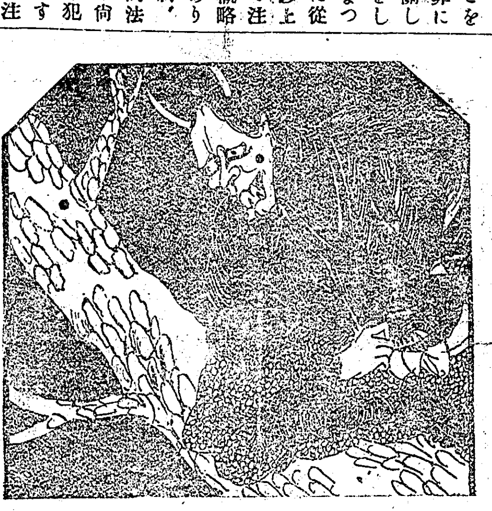
「えッ！」

「おゝッ」

兩人は体を開いて構へを直し再ぶヂリ／＼と詰め寄つたとまことの隙か誘いの隙かかい人の左の胴に瞬間の空隙

「わッ！」

とグンバは得たりと斬り込んだ。



吉田眼科醫院

謹告
◇本日ヨリ第二回　文化納涼園
開催に際し御來客に限り冷しコーヒー進上致します
何卒御來遊下さる樣御待申ます
メンチカツ一品金十五錢
出前も致します
カフヱータヒラ
平町一丁目（電話六二〇番）

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平園五〇七番

三百年の古い歷史と
他の模擬（まね）の出來ない
獨特の芳香（かほり）と色澤（つや）を有つ
ヒゲタ醬油
釀造元　銚子醬油株式會社
平町田町
特約店　廣瀨支店
電話五四番

ホシ胃腸藥
胃腸氣痛藥
ホシ胃腸藥
星製胃腸藥
시위장약

居乍らに萬斛の涼味
扇風機會賦販賣
三月拂十二吋頸振（一回目十二圓　二回目十一圓　三回目十圓）
事務所のテーブルの上に……
商家の店頭に……
可愛た子さん方の爲にも
各御家庭に一臺は是非お備へ下さい
モーター扇風機の修繕も致します。
平町白銀町九番地
電機機械　日東商會
電話平六五〇

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
（久）釜屋商店
諸橋久太郎
電話一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

生殖機精强
腦神經衰弱病
一回一錠
トツカピン

斯の如き人にトツカピンを推奬す
◎遺精夢精で身體か弱わる人
◎早老で神聖なる性交不結果
◎過淫、手淫で頭がボンヤリ
◎記憶力減退し根氣の薄い人
◎虛弱で元氣なく精力ない人
◎男女性能缺乏感覺減少の人
◎ヒステリーでイラ／＼する
◎眠むくても眠むれぬ不眠症
◎精力と元氣と健康を欲い人

健康男女
精力の消耗補給と元氣健康の增進劑として常用せは或る何者か得た樣な言はれぬ心强さを體感す

三大改善
○內容增量＝藥法改正により一劑以上二割增
○包裝改正＝世界的販路の見地より愛用者奉仕の爲
○容器添付＝五圓以上ニツケル製携帶容器付

藥價
三十錠　三圓
五十錠（携帶容器付）五圓
[illegible]（同）十圓
[illegible]（同）廿圓

發賣元
東京市銀座新肴町八番地　振替東京七二二一番
丁子堂藥房
大阪市西區立賣堀北通二の九　振替大阪一〇六番

同志多數の當選を期し
公認候補を潔よく辭退
斯くして商港と平小鐵道の實現
小野晋平氏の大襟度

來る廿八日開かれたる石城政友倶樂部の縣議候補豫選會に於て大多數を以て當選したる現縣議小野晋平氏は選擧民多數の輿望を擔ひ來るべき縣議選擧に於て再び確實に當選すべきは蓋し既定の事實として觀られてゐたが氏が既往四年間に亙り縣議在任中終始渾身の心血を傾注して倦まなかつた小名濱商港及平小鐵道の問題は昨今漸く

實現の曙 光を認むるに至つたとは云へ今後尚ほ織つて地方官民の獻身的努力に俟つもの多く此際地方民一般が擧げて同氏今後の活動努力を要望する所以なると同時に氏亦ます／＼後の努力を拂はんとする處なるも氏の謙讓の美德は氏を驅つて以て新記諸問題の實現促進上その負荷の重きに堪へざるものとなしこの際同志の先輩たる鈴木辰三郎、山崎吉平、井上茂作諸氏及古川傳一氏等同志の力によつてより良き結果を招徠すべきであるとし即ち地方に於ける

利益開拓 の開鍵とも云ふべき小名濱商港、平小鐵道實現促進のためには飽くまで同志多數の當選を期せねばならぬと氏は大多數選擧民の要望の反映とも云ふべき縣會議員の公認候補者を敢然辭退し二十九日夜之れを發表するに至つた、地方民一般は氏の名聞利達に淡くして地方のため福利増進の爲には何等の野望なき雅懷襟度に多大の敬意を拂つてゐる

萬死を賭して
小野君に酬ゆ
實に見上げた行動
安島重三郎氏語る

小野晋平氏今回の壯擧は兎もすれば正義公道を云々されるゝ政治家の少なからざる當今實に見上げた大襟度なりとして天下多衆の賞讃を浴びてゐるが石城政友倶樂部會長安島重三郎氏は實に敬服に値あると前提して語る『小名濱は商港、平小鐵道その他望みを囑すべき新興の地にして土地の有志が小野君が擁立に熱中する事も小野君が愛町の精神より勇躍するのは當然の事たるは勿論多事なる我が縣政は實に君の如き清廉熱烈の士を要求してゐるのである然るに君は我黨多數の當せんを望むの餘り公認の地位を捨て盤石の如き地盤を同志の爲め捧げた事は實に崇上る愛黨、愛町の精神からで我が黨は萬死を賭して全勝を期し而して小野君の御期待に反かざるの覺悟が必要である』云々

公認候補を辭退した
小野晋平氏

私を捨てゝ
大衆の爲めに
先輩諸氏に期待
小野晋平氏語る

小名濱商港、平小鐵道速進の爲め同志多數の當選が期したい一念から然かも公認候補の有利な位置を犧牲に如く捨て大雅量と襟度を示した現縣議小野晋平氏は往訪の記者に語る『地元の有志各位が懸命の聲援と豫選會に於ける公認の期待を裏切つて候補を辭退した事は一に私を捨て、本黨の大義に就いたつもりである、商港並に平小鐵道問題は吾黨が縣政壇上に立つて自ら叫ぶまでもなく既に國家的の須焦眉の問題として我黨議員諸君は共に盡力して呉れるのは勿論であるが此の場合先輩同志諸君が多數當選を期する事は有利である事を痛感し、が爲めに吾輩は今後とも町の有志と携へ先輩諸公と相協力して初期の目的たる重要問題の解決に一身を捧げたい決心である、尚今日まで私の爲め熱心に聲援して呉れた有志に對し貴紙を通じ謹むで謝意を表したい』云々語つた

石城民政黨幹部が
福每紙不買同盟
黨の圓滿を亂すものとて
內部不統一暴露

石城民政黨幹部間に於ける內訌軋轢は縣議戰の切迫と共に益々露骨化し醜を天下に暴露したが其の最も顯著なるは黨內最近機關新聞の不買同盟騷ぎを持ち上げた、即ち福島市發行福島每日新聞は同黨の機關紙として自他共に認め殊に同紙の最近は石城政友派の

隆盛を妬 むの餘り頻りより凡ゆる曲筆舞文を弄し時に政友幹部間に離間中傷策を試み信用を失墜せん事を企み反つて多數の心ある郡民より反感と嘲笑を購つてゐるが同紙は民政黨の機關紙として敵黨政友會に當り散らすのみならず石城民政黨一部幹部にのみ阿り迎合し同黨一部の者に對しては爲毎に敵對的行爲に出でつゝあるは

黨の機關 紙としての指命に悖るのみならず寧ろ黨の圓滿を攪亂する毒素であるから之れを斷然驅逐せねばならぬと四倉町吉田喜三郎、平町栗城千代三氏等即ち民政黨の中堅組が急先鋒となり同志を糾合して福島每日新聞不買同盟を計劃し既に賛成の連判を取り纏め中で縣議戰も第二期に入り益々言論機關の多端なるとき然かも民政黨同志の機關紙不買同盟は可成りの痛手であり一部幹部間には一大恐威を感ぜしめてゐるか非常に興味を以て一般から觀られてゐる

總工費廿五萬圓で
平局舍新築近し
本町三、四丁目の間に
複式電話の設計

局舍の腐朽狹隘から久しく新築移轉の必要に迫られてゐた平郵便局は工費廿五萬圓の豫算を以ていよ／＼本年度に新築することゝなり この程仙臺遞信局から新井書記來平移轉敷地の調査をなしたが敷地は六百坪で町の目貫の本町通り三丁目から四丁目の間にたいて候補地二ケ所を選定して歸仙した工費は敷地買收費坪當り平均百圓として六萬圓建築費十九萬圓で建築は耐震耐火の鐵筋コンクリートとし將來平町が市制布つた曉電話交換機は現在單式より複式に電話線を地下線とし得る樣に十分餘裕ある設計をなす筈

四倉セメントの
爭議員檢束
職工と衝突

石城郡四倉町磐城セメント會社の爭議は解決せず東京から乘り込んだ勞働團體が活躍し廿八名の解雇者に對し退職手當の支給方を要求中であるが幹部の大久保某（三〇）は二十七日會社の庶務課長に會見せんとして拒絕され職工と衝突して暴行したので四倉署に檢束され二十八日朝釋放された

織屋の手代
金を持て逃走
主人が搜査願

群馬縣桐生市絹織物商西川數治は手代酒井淺重（二五）藤金松（一七）の兩名を伴つて今月始めから賣掛代金收金のため當地方に入混んでゐたが廿八日相馬郡中村町荒井町柏屋旅館に宿泊し同町附近の收金中前記金松、淺重の兩名は收金した賣掛代金約三百餘圓を拐帶示し合せて行方を晦ましたので主人數治は驚ろいて中村署に兩人の行方の搜査を願出たが兩人等は兼ねて知合の湯本町の某宿に潛伏してゐるらしい形跡あるので今卅日平署に出頭兩人の取押へ方を願出た

郡下の農民
持米を放す
農作を豫想し

石城郡地方の稻作は愈々豐作と見越されるに至つたので作柄如何を氣遣ひ賣控へてゐた地主等も漸く見越のつきたる上は持越すが却て不利なりとして賣急ぎの狀態となり相當纏りたる賣物がぽつ／＼出て來てゐるから平町地方の米價は今一段の低落は免れぬであらう

震災紀念日をトし
平町の酒無デー
四周年目の九月一日
町當局普及努力

平町では九月一日の關東大震火災第四周年當日に於て最も緊張裡に當日を追憶記念する爲日本國民禁酒同盟の希望に基き縣よりの通牒によつて左記申合せ事項の徹底を期すべく夫々畫策中である

一、九月一日に行はるるべき公的會合に酒を用ゐざること

二、各個人戒めて酒を愼む事

三、印刷物配付、ポスター掲示により趣旨の徹底を圖ること

四、講演會、活動寫眞、路傍演說、行列その他の催しにより趣旨の徹底に努むること

五、ラヂオにて趣旨の放送をなすこと

普選の精神に基き
黨員本位に選衡
郡民多數の輿望を負ふ
盤石の石城政友

石城政友會の縣議候補は昨夕刊所報の如く去る廿八日聚樂館に開かれた豫選會の選衡委員會に於て四名を公認する事とし無記名連記投票の結果鈴木辰三郎、山崎吉平、小野晋平、古川傳一の四氏を公認に決したが小野晋平氏は前項所報の如き理由卓見と一大雅量を以て同志數多の當選を期する爲め勇退するに至り選衡委員會に於ける次點者井上茂作氏が公認される事となつた石城政友會は斯くの如く一と度び事に臨めば一切の我を捨て大義に就く

紳士的訓 練と一糸亂れざる幹部の統師が然かも常に民衆の味方となり郡民の輿望を擔つて立つ眞の値打であるが今回豫選會に於ける事實に見ても從來黨の公認候補者は最高幹部間に於て決定するか乃至は選衡委員等も幹部の指命に基いたものが今回は然も普選の精神に基き選衡委員は有權者一千人までの町村は二名としそれ以上五百名を増す毎に一名を増員するてふ飽くまで

多數民意 を尊重し然も選擧によつて夫れ／＼町村より選衡委員を選出し尚ほ從來候補者の選擧地盤割の如きも全廢し飽くまで普選の精神に基いた最も模範的方法によつて右四氏を公認せる等實に新時代的行續に對し多數郡民は愈々政友會の行方につき多大の好感を以て迎へてゐる、因に各町村の選衡委員氏名は

（高久）薬谷義長、本馬武（小名濱）小野粉平、飯塚榮一郎、小濱長太郎（湯本）若松條助、塙信人、村上泰、（鹿島）鈴木大藏、鈴木總次郎（內郷村）菅波忠治、四家又一、山崎米太郎、野崎運吉、山下喜代治、草野助次郎、鈴木忠治（平町）永山和平、草野七五三之助、佐々木龍若、三森虎雄、鷹崎貞衛、諸橋守治、高橋原吉（平窪）高橋孝治、松崎松治（飯野）伊藤淺之助、渡邊博（大野村）木村庄助、馬上豊、瀧川為人（錦）星磯吉、（川部村）兒玉萬平、蛭田吉治（植田）渡邊稻太郎、藤田淺之助（勿來）菅川喜內、赤津庄兵衛（大浦村）片寄助次郎、片寄喜三郎（江名町）遠藤俊一郎、加澤一造（夏井）木田淺吉、矢吹豊（神谷）鈴木辰之丞、草野龜松（泉）江尻博孝、上遠野定次郎（渡邊）水野定清、大平定吉、大和田粂雄（永戸組合）草野辰吉（赤井）鈴木隆衛、松崎松太（玉川）永井德彌、駒木根忠三（磐崎）佐川久米之助、岩政雄、吉田作平（三坂組合）平山藤吉、會田政治（小川）柴崎太吉、長谷川博通（四倉）門馬倉次郎、中野捨與（好間）叶多清、大河原茂平（以上）

昨夕刻川中子
雨中の火事
原因小供弄火

昨廿九日午後五時四十分頃好間村大字川中子字杉ノ內井出淸治方住宅表から發火し折柄の雨中に火は忽ち同住宅一棟を燒失して午後六時四十分頃鎭火したが原因は淸治の次男太（四才）の弄火からで損害約一千圓餘であると

梨樹品評會
大山技師が審査

本郡農會大野、赤井、窪の三ケ村農會主催梨樹立木品評會は來る九月四日前記三ケ村に於いて開かれるが郡農會から大山技師出張審査する筈である

町長排斥の
實行法協議
紛亂の湯本で

過般來引續き紛擾中にある石城郡湯本町大字湯本に於ける高木町長排斥の實行委員會は二十八日午後七時より同町寺院惣善寺に於て會したが出席五十餘名今後の對策に關する協議をなし七時閉會したと

平稅務署の
賃貸委員會
來月末頃から

平稅務署管內四十萬筆餘に對する土地賃貸價格は過般中にその調査を了したが縣會議員選擧前の爲開會時期の告示を見なかつたが前記せん擧の終了後來月廿七日頃より開會の豫定であると

全署員を集めて
選擧取締注意
新法初回の選擧に當り
多忙な平署當局

近付いた縣議戰を前に此れが取締の任に當る警察署は殊に普選法に依る第一回の選擧であるだけに取締りに關する多くの疑義もある事とて殆んど寢食を忘れ研究中であるが今卅日午前九時から全署員を署樓上に召集猪狩署長から縣議戰に對する取締りの注意事項に付いて約三時間に亙る訓示があつた

喫煙室

この前政友會の演說會で二度の解散命令と二度の解散取消しをやつて味噌をつけた水谷四倉署長二十七日夜の民政黨演說會には今日こそ取締まりに苟くも機宜をあやまる樣な事はしないぞ片唾を呑んで會の進行を注意してたつた矢先、前回に何倍するの騷ぎ言論尊重の意味？から今度は全然解散命令を發せぬので前回の取締振を知る聽衆がきかない忽ち怒號罵聲場內に渦まくの物凄い光景となつた、解散を命じて惡るし、默つて居て惡し、何つちへ轉んでも割の惡い役目だ水谷署長必ず署長にはなるなと孫子の代まで遺言をするそうだ

記者募集

年齡廿二三才位身体强壯にして中學三年程度の學力あり市內に住居するもの一名至急募集す、希望者は午前九時までに自筆履歷書持參本人來談あれ

磐城新聞社

時言

多數の輿望を擔へる小野晋平氏が然かも愛町の大精神から商港と平小鐵道速進の爲め同志多數の當せんを期して潔よく辭退す

□

洵に近來特筆に値すべき美談たるを失はぬ其の大雅量と其の襟度を以てせる辭退の二字こそは當せんの二字に優る榮譽と光也

□

安島會長の萬死を賭して小野君の期待に酬ゐんなる壯烈な一語は、以て商港と平小鐵道の速進を期して待つに足るべし

□

石城民政黨の福每紙不買同盟問題、いよ／＼連判狀集めの段取り迄に移る熱力の行くところ何物か敵あらん、フレー／＼

創業三十週年紀念謝恩
自信アル一の井洋食普及デー
九月一日ヨリ向一ケ月間大勉致します
高級洋食
一品金十五錢均一
洋食宴會
仕出し
平町田町
一の井
電一六七番

ビーズ手藝講習會
期日　九月二日　九月六日　（前九時…后四時）
講習科目　（手提袋、蟇口、電燈カバー、帶止、羽織紐、扇子紐其他）
講師　東京讀賣新聞社囑託講師　野田春子女史
會費一日　金參拾錢
製品ハ三丁目三井呉服店々頭ニ陳列シテアリマス、ゴ自由ニゴ覽下サイ
材料ハ讀賣新聞社直接安價販賣致シマス
申込ハ同校側ハシモトヤ糸店內
主催　私立藤田裁縫女學校

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
平　南町
上田外科醫院
電話一二九

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士　敬白
大谷時計病院
電話一九番

故牧原修儀葬送の際は殘暑難淩きにも不拘御會葬下され且つ多大なる御香奠を賜り御芳情誠に有難く奉存候御陰樣にて葬儀萬端滯りなく御營み候間略儀ながら紙上を以て御禮申上候

昭和二年八月二十九日

長女　牧原美知子
親戚總代　牧原修雄
友人總代　清水嚴政